

三国防災

永井地区改良その3工事
施工者：宮下工業(株)

国道17号三国防災は、群馬県みなかみ町から新潟県湯沢町間の新三国トンネルの整備と、その前後の国道の急カーブを直して見通しを良くしたり、古くなった橋を掛け替えたりといった交通安全の確保を目的としている防災事業です。今回見学させて頂いた永井地区改良その3工事は、新三国トンネルの掘削ズリを活用して行う予定の改良工事で、町道との交差点の位置変更や付属する構造物の整備なども行っています。



現場を支える技術者さん達の声

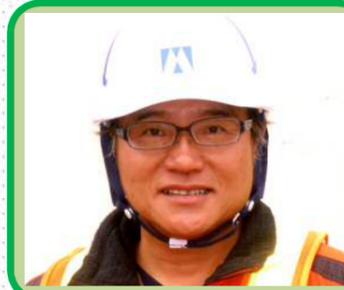
施工者である宮下工業株式会社みなさんにインタビューしてきました。皆さんの熱い思いをお伝えします。



狩野さん

(入社32年目)

群馬県渋川市出身の57歳。工事現場へ熱い視線を注いだ子供時代からの夢を胸に、大学進学後、土木技術者への道を一直線。趣味はゴルフや釣りなど。日曜日はのんびり過ごしつつ、たまった家事を片付けたりするそうです。



親松さん

(入社35年目)

群馬県前橋市出身の54歳。ダム工事に関わっていた親戚からの影響も受け、土木専門の高校卒業後、土木の道へ。趣味は登山、ミュージカル鑑賞(ご夫婦と一緒に鑑賞されているそうです)。群馬100名山を制覇済み。



井上さん

(入社3年目)

群馬県前橋市出身の25歳。高校時代に舗装されていた道で足を縫う怪我をしたことで、人々が安心して利用できる道づくりの大切さを実感。大学進学後、土木の道へ。趣味は映画鑑賞で1日に2本観ることもあるんだとか。

宮下工業さんて、どんな会社? ~いろいろ聞いてみました~

Q 社員さんの年齢構成は? 女性はいらっしゃいますか?

A 社員は40代が多いです。女性社員は営業や事務にはいますが、現場には残念ながらいません。でも今年はインターンシップで女子学生に勉強にきてもらい、重機での作業が楽しいと言ってもらえました。

Q 工事を進めていく中で重要なことは?

A 図面に描ききれないもの、詳細が未決定なものについて、地域の方々とも関わり合いながら丁寧に打合せをして、ひとつひとつ正しい方向に進めていくことです。

Q これからを担う人材を集める工夫はどんなことをされていますか?

A 会社説明会を頻繁に行ったり中途採用もしています。HP作りにも力を入れています。普段は入れない現場に入れるイベント等も行って土木の魅力を伝えていきたいです。

土木に関わりたい方、求む! ~業界はこんな風に変化しています~

職人の高齢化や地元に残って就職希望する人が減りつつあり、次世代の担い手の確保・育成が課題となっている土木業界。志ある皆さんを後押しする、土木業界3つの変化を宮下工業の皆さんに伺いました。

①「ワークライフバランス」を大切にしています。

現地に長期宿泊ではなく、自宅通勤、お弁当持参派が増加中とのこと。定期的な休日の確保にも努めており、プライベートの時間も大切にしているそうです。

②ハイテク化が進んでいます。

作業の負担軽減や簡素化をはかるため、情報化・機械化に努めているそうです。

③若手技術者の方、活躍のチャンスが豊富です。

業界全体として若手技術者専任型の発注案件が増加しており、若手の皆さんのパワーを発揮する機会に恵まれているそうです。

取材を終えて

工事内容等、詳しく説明していただきました。普段はなかなか現場へ行く機会がないので、3人の技術者さん達とお話させていただき、土木に対しての真剣な話を聞く事ができてとても勉強になりました。(下川・田村)



EPS
工法

綺麗な
仮設
トイレ

今回の工事ではEPS工法が取り入れられています。EPS工法とは発泡スチロールでできたブロックを盛土の材料として使う土木工法です。発泡スチロールをいろいろな形に電熱線で切って一段一段積み上げて盛土をつくり、その上に道路をつくります。この工法は工期の短縮や工費削減に大きな効果があるそうです。道路の下が発砲スチロールでできているなんて、驚きですね!!



女性2人でも、楽々なのです。



登山・観光の方達にも自由に使ってもらえるように、洋式の仮設トイレを現場に設置しています。流水音発生器が付いていたり、手荷物がおける台があったり。女性にもきっと気に入ってもらえる仮設トイレだと思います。



中も綺麗で清潔です。